広報
さめがわ

第106号
昭和37年
7月15日発行

編集兼発行
鮫川村役場
鮫川村公民館
塙町　佐藤印刷所



あたし赤ちゃん大会に出たのよ。
ホントにおどろいちゃったの。
みんなスゴク大きいよ。
それで村のお母さんたちにおねがい！
来年はきっと県内一のお子さん出して、ね。
あたしのおウチ？　石井草なの。
パパ　中川西一郎、ママはステっていうの。
生れ？去年の二月よ。

あたしなんでもたべるの。
ママが保健婦さんにいろいろ相談するの。
皆さんの家にもまわりますって。

◇　◇

このポーズいかが。

写真は第九回県赤ちゃん大会
出場者キミエちゃん

七月

●たのしいのも水あそび
●こわいのも水あそび
○幼児から目をはなさない。
○あぶない川や池などで遊ばせない。
○子どもは一人で水遊びにやらない。必ず友達といっしよに行かせる。
○キケンなところや伝染病のあるところでは、絶対に泳がせない。
○水泳前の準備運動を守らせる。

赤痢予防の五原則

1 下痢をしたら赤痢と思え。
2 シロウト療法はゼッタイやらない。
3 健康診断は早めにうける。
4 生水、生モノはとらない。
5 食前、食後は必ず手を洗う。

7月の人口と世帯

人口		
	7.917	(−34)
男	3.919	(＋5)
女	3.998	(−39)
世帯数		
	1.254	(−10)

新しい農業

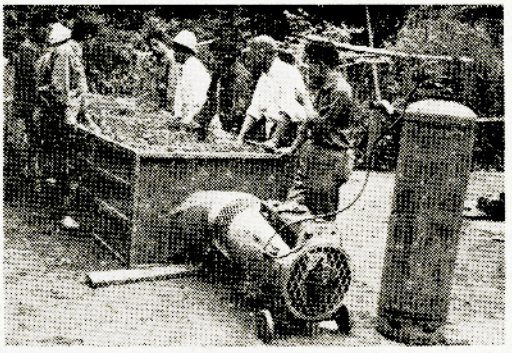
多頭飼育にひと役
‖牧草乾燥機‖

後進産業と言われる農業のなかで、成長株である畜産の振興にともない、飼料作物が増産されつつありますが、栄養価の高い良質の干し草を短期間に大量に作るために、麦作を飼料作物にかえる事業として牧草乾燥機（一七八、〇〇〇円）四台が、村と県より五割の補助をうけて村内の滝の下、官代、宮沢、塩倉の各四部落に共同施設として入りました。

これは写真のような機械によって乾燥した熱風を牧草に吹きこみ乾燥するもので、雨天の日でも良質の干し草ができます。生草からも乾燥できますが、天日によって予備乾燥をしてから乾燥機を使用すると、能率があがり、完全に乾燥された牧草一キロが、約一円四〇銭の費用ですみます。

今後も家畜は増えてゆくでしょうが多くの家畜を飼育するには飼料の増産が必要です。「良い牛は良い草から生まれる」と言われます。

多頭飼育にともなう牧草の問題を解決するために、期待される農機具のひとつです。



村議会だより

六月二十八日に開かれ次の議案が議決されました。

▼追更予算では繰越金追加等の財源一八二、三五九円で、役場会議室修繕料などに十万円余。青生野の牧野改良費に五三、九五〇円、参院選挙費に二六、六六九円等が追加されました。

▼東野の遠ケ竜から石井草に通ずる林道と開拓道路の敷地として、国有林野の借受申請を行ないます。

▼任期満了の監査委員に関根友安氏、人権擁護委員に吉田義美氏が再選されました。

▼鮫小東野分校の建築委員に中川西村議会議長の他九名を選任しました。

お盆は中暦で

昨年の盆は新、中、旧の三つに分れて混乱したため、本年は広地域で統一しようと県南一市三郡（白河市、東、西、石川郡）の公民館職員研修会で、中暦に統一して推進することを申し合せました。

村でも六月二十七日に新生活運動推進委員会を開いて協議したところ、「煙草耕作地域は新暦が良いが隣接町村が中暦で実施するなら同調すべきだろう」との結論になり、八月十四日、十五日、十六日の三日間を休日として中暦盆の実施を促進する申し合せをしました。

このような運動は皆さん方の自主的な協力によって進められるものです。新しい時代にそって、古い習慣を合理的に改善してゆきましょう。

木炭の規格

本年の六月一日より次のように改正されました。

①切炭　（長さ六㎝……九㎝）

特選……クヌギ丸、堅一級……クヌギ・ナラ、堅二級、一級……クリを除く雑木、二級……雑木で木ぞろい。量目は六キロの袋つめと十二キロのスゴ俵入れの二種類です。

②長炭

クヌギ・ナラ・雑木（クリを除く）に区分し、樹種を混合したものは認めません。

木炭の経費量目は現行通りです。

その他のことは、木炭検査所に問合せて下さい。

（木炭組合）

いもち病

この長い雨が終る頃から水稲の大敵いもち病が多発するおそれがあります。防除の準備はできたでしょうか。

葉いもちは、早期発見、早期防除に努め、穂首いもちは薬剤の予防散布が大切です。

薬剤は今までの水銀剤の他に、今年から抗生物質を利用した、ブラエスM粉剤も実用化されております。

今年は葉いもちの防除はもちろんですが、穂首いもちの予防（穂孕期と穂揃期の薬剤散布）に重点をおいて、防除をいたしましょう。

村の防除団

各農事組合ごとに防除班が設けられ、防除員や農政推進員とともに、病害虫の防除にあたることになっています。農作物に病害虫が発生したら農事組合長に連絡して早日に防除しましょう。



本村に降つた鶏卵大のヒヨウ

災害発生＝連絡

災害の発生する季節になってきました。ヒョウ害や豪雨、台風などのために被害をうけた場合は、多少にかかわらず、すぐに役場経済係に連絡して下さい。

二組合が完納
国民年金

西山の岩の草下組合（根本勇）と岩之草上組合（根本伝）が前年に引き続いて一年分の国民年金保険料を完納しました。

恩給をうけられます
旧軍人軍属の皆さんへ

勤務年数が十二年（下士官以下）又は十三年（準士官以上）で、既に恩給の裁定を受けた方は、恩給額が改訂されましたので、手続をとって下さい。

本年の九月三十日までに手続をしないと、時効になりますから注意して下さい。

加算恩給（勤務場所によって異なる）を含めて十二年又は十三年以上になる方も恩給を受けることができます。

その他くわしいことは役場住民係又は軍恩連におたずね下さい。

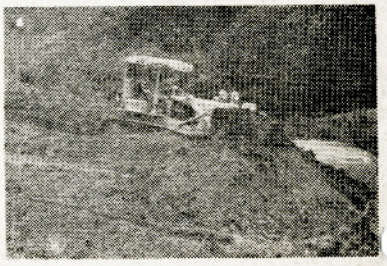




（一票を投ずるお母さん）

七月一日に行なわれた参議院議員選挙は、各投票所とも好調な出足をみせ、九一・五%で（郡内一位）で参院選始まつて以来の好成績を収めました。各区の順位は次のとおりです。

①青生野（九八・四六%）　②中野　③東石　④富田
⑤西山　⑥西野　⑦渡瀬



（校舎の整地作業すすむ）

本年度に改築を予定されていた鮫小東野分校は、地元の協力会（会長に森宗一、副に吉田芳弥）が熱心に活動を開始、七月二日に入札が行なわれ、棚倉町の渡辺産業（正雄）が、三〇〇万で落札し着工した。校舎は七十二坪の平屋建に屋根はトタンぶき、外部はモルタルの近代的な校舎が十月までに完成する予定です。



（意見をのべる組長さん）

六月十四日に納税組合長大会が開かれ、富田の坂本長治さんが議長に選び、村県民税賦課の変つた点や、国保、年金、農業構造改善事業など、当面する村政の諸問題について議事が進められ、活ばつな質問もあつて盛会のうちに終了しました。

おはなのふみ（33）

今年の村税

村長　石田卯子八

最近県と町村会がまとめた、市町村財政の実態についての統計が発表されました。

これによると、県内の町村分の単年度実質収支で、赤字町村が二五、黒字町村が八一となつていますから、地方財政が好転したとはいつても、依然として容易でない状態にあることがわかります。

本村の三十七年度歳入予算では、村税の占める比率が一六・九%となつています。一年間の村の経費をまかなうための自主財源が二〇%を下廻るわけで、この点県内でもごく弱い方の類型にはいります。

それだけにまた貴重な財源であることは申すまでもありません。

県では人口段階、産業構造などから管内町村を区分していますが、本村は下位から二段階目の階層で、この類型には一五の町村がはいつています。

それらの中で本村の税負担の地位を調べてみると次のようになります。

村税負担の人口一人当り

新鶴村	三〇一五円
鮫川村	一三一七円
類似町村平均	一八八七円
全市町村平均	二七三〇円

この階層では本村が最低となつております。

また隣接町村をみると何れも本村より高く、次のような数字になつております。

古殿町	一六五六円
矢祭村	一七一九円
塙町	一六八五円
棚倉町	二〇六八円
浅川町	二〇一四円
石川町	二〇〇五円
田人村	二三八二円

以上が現実の姿ですが税負担の低いことは、かならずしも誇るべきことではありません。

三十七年度の村税については先に地方税法の改正があり、村条例も改正されました。

大きく変つたのは村民税の大巾減額で、予算面では一六六万円、前年対比実績では一八〇万円からの減税になります。

これは扶養控除、専従者控除などが引上げられて、所得割から差引かれることになり、また身障者未成年者などの非課税範囲が拡げられたことによるもので、家族の多い低所得層に相当の負担軽減が行われます。

村政の充実と前進のため、今年もまた納税に協力されますようお願いいたします。

住民所得の向上によつて税源が豊かになることが望ましいわけであります。

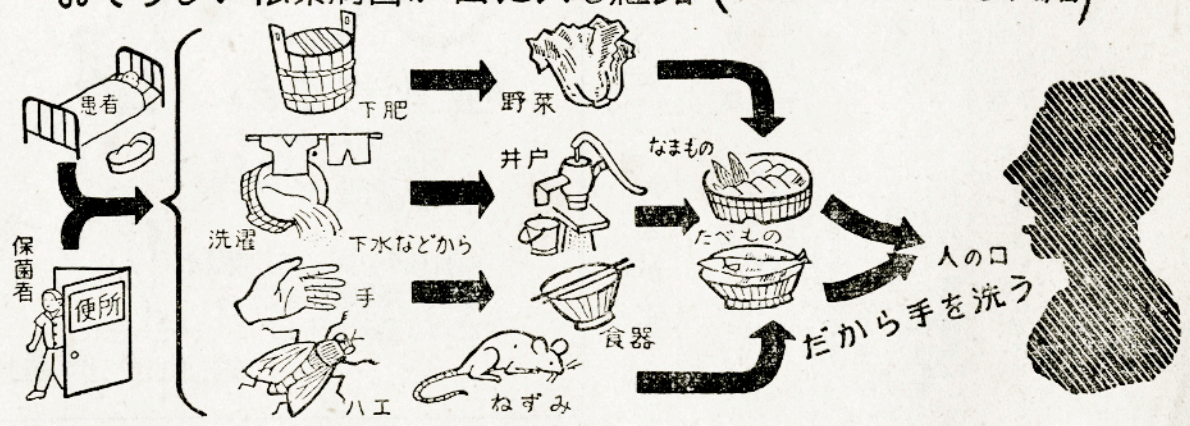
尊い生命を一夜で奪う

おそろしい疫痢から子供を守りましょう

今年も既に十四名の発生があり、内二名は死亡しました。患者や保菌者は鮫川古殿組合立伝染病棟に収容し、発生部落は全戸消毒検便を行ない、十分予防措置を講じ、現在入院患者も全員全治退院しましたがゆだんはなりません。下表のことは是非知つておいて下さい。

おそろしい伝染病菌が口に入る経路

（赤痢、疫痢、腸チフス、パラチフス、小児マヒ、コレラ、などの場合）



構造改善事業と並行して
＝社会教育の進め方＝

公民館の運営を審議する委員会は、六月二十二日に開かれ、十二名（欠席三名）の委員が出席して三十七年度の事業計画や部落公民館の運営について審議したが、変動する農村社会のなかで社会教育の果すべき役割について論議され、農業のしくみを変えてゆく構造改善事業が、すべての分野で当面の課題となっているので、行政機関や村内の各団体が横の連けいをとりながら、趣旨普及をする必要があり、社会教育もそれらのなかで進めてゆくべきだろうとの結論になり、運営審議会の意見として論議の中心になった点をまとめ、推進方法について村当局に要望書を提出することになった。

新生活運動の指定地区に中野

県の新生活運動協議会（会長佐藤知事）より本村の中野地区が指定をうけ、地区協議会長に区長さん、推進委員に各組長さん方、常任委員に部落公民館の運営委員さんがあたり、環境衛生の改善など次の事業を推進することになりました。

①蚊とハエの駆除、②健康診断（乳幼児・成人）、③食生活改善、④生活の合理化、⑤健康の保持増進

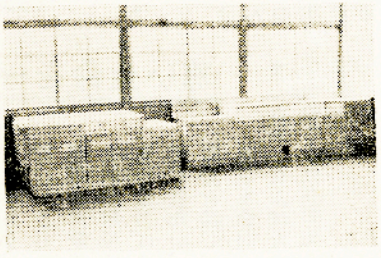
モデル館に西山・富田

各区の公民館を中心に、各種団体の事業調整をはかり、部落内の公民館活動の振興をはかろうと、本年度から部落公民館運営（区単位）に補助（モデル館二、普通五）をだすことになり、各館ごとに運営委員会を開いて協議された事業計画書により、このほど本年度のモデル館として、新生活運動（環境衛生の改善など）の推進を中心に、事業を進める西山公民館と、婦人学級の振興（とくに若妻）を中心に進める富田公民館の二館を指定し、新生活運動指定地区の中野公民館とともに事業を進めることになりました。

婦人学級を視察

七月二日に五十名の婦人会員が参加して、西白河郡中畑農協の経営内容や婦人部の活動状況を視察し、石川郡の玉川村泉婦人学級の学習状況を参観し話し合いをもちましたが、若い方が多く意見も活発なのに感心しました。

ユニツト・キツチンのご利用を



高校分校で家庭科の実習用として写真のような立派な調理台を設備しました。同校では一般にも解放するので、婦人会や青年会などの料理実習に利用して頂きたいとのことです。

郷土の伝説

福原（ふくはら）の伝説（7）

中井恒雄

その日の午後のことでした。太郎蔵の息子の倉蔵が外庭で仕事をしていますと、どこからともなく『うーんうーん』と、人のうなり声が聞えてきます。気味悪くなつたので、あちらこちらと、うなり声のするところを捜していますと、土蔵の中から聞えてくるようなので中に入つてみました。すると一人の老人が苦しそうにうなつております。不思議に思いながら、おそるおそる近よつて『あなたは、どなたでしようか』と、たずねてみました。

『おれはこの家の福の神だが、主人に弓で射られたのでこの家にいることが出来なくなつた。それで社川村の福井（今の棚倉町福井）という所に移ることにした。それで別れに望んで一言いつておくがお前さんがもし困るような時は、いつでもおれのことを訪て来てくれ。太郎蔵には弓矢でうたれたが、あなたにはなにもされないのだから』

それから間もなく太郎蔵は神のたたりのためか、人のいやがる病になり、訪ねてくる人もなく、あれほど盛んだつたその家にも不幸が続きすつかり没落してしまいました。いよいよ太郎蔵の死期が迫つてきた或日、息子の倉蔵をまくら元によんで、『ああ、ちょうど今日は、福の神さんありがとうございました』と、小さな社を野原にたてて福の神をまつりました。すると倉蔵の家はだんだんとお金持ちになつていつたということです。人々はそこの野原を『福原』というようになり、本村の字名となつている。

者のいうことをまともに受けて屋踊りの者を弓矢で射たのはやはりわしのまちがいであつた』といい残して間なく息を引き取つてしまいました。太郎蔵のなきあと、生活はますます苦しくなり、途方に暮れていた息子の倉蔵は、ふと福の神のことばを思い出して福井に行つて近頃金持ちになつたという農家を訪れて、神様を拝んだところ、それから生活はすこしづつ楽になつて来ました。息子の倉蔵は、

おめでた

五月
二二日宝　木水野　健
二八日浅屋敷　鈴木芳男
三〇日岩野草　松崎友子

六月
七日道少田　前田守幸
九日青生野　長井尚子
一〇日蛭ケ沢　石井治子
一五日青生野　白石すい子
一六日中内　中川西弘子
二〇日前田　前田強
二一日仁田　緑川京子

おくやみ

六月　死亡
八日本　坂藤田昌子
二六日　茅藤田正敏
二八日本　坂石井澄

あとがき

○…夏は蚊とハエのうるさい季節で、伝染病の発生する時期でもあります。最近では科学の進歩とともに、衛生思想も普及したため、ノミやシラミなどは駆逐されてきましたが、蚊やハエとなると、自由に飛べるためか撲滅は困難なようです。

○…夏も暑いのはガマンするとして蚊やハエには人間だけでなく家畜も弱ります。ノミやシラミとちがつて個々の家庭で駆除しても効果があがりません。皆で共同して蚊とハエの追放にのりだし伝染病など起らないように努めたいものです。

